

## アンドリュー・ジャクソン・ダウニングに関する覚書

鷺津浩子



Andrew Jackson Downing (1815-52)

### 1. はじめに

前号の「アメリカの庭園／庭園のアメリカ」でも触れたように、1831年にボストン郊外に開園したマウント・オーバン墓地(Mount Auburn Cemetery)から着想を得て、アンドリュー・ジャクソン・ダウニング(Andrew Jackson Downing)は都市に大きな公共の庭園を造る運動を起こした。蒸気船の事故で夭折したため彼自身が公園造営に着手することはなかったが、その発想はカルヴァート・ボックス(Calvert Vaux)やフレデリック・ロー・オル

ムステッド(Frederick Law Olmsted)に受け継がれ、ニューヨークのセントラル・パーク(Central Park)に結実している。また、エドガー・アラン・ポウ(Edgar Allan Poe)やヘンリー・デイヴィッド・ソロー(Henry David Thoreau)にもその影響が見られる。そこで、ダウニングに関してこれまでに分かったことや考えたことをまとめておくことにしよう。

### 2. ダウニングの風景式庭園

ダウニングは1815年10月31日ニューヨーク州ニューバーグ(Newburgh)で生まれ、その地で生涯のほとんどを過ごした。このあたりのハドソン川は風光明媚で有名であり、19世紀初頭にはハドソン・リバー派絵画の題材ともなった。代表的な作品には、トマス・コール(Thomas Cole)「川の湾曲部」(1836年)や「ジェリナから見たタイコンデロガ砦の風景」(1848年)などがある。文学史的にはワシントン・アーヴィングの著作によって有名になった地域であり、その邸宅サニーサイドも近隣に位置している。ダウニングが風景式庭園(landscape gardening)の理想とするピクチャレスク(picturesque)は、文字通り「風景画のような」ハドソン川の風景と、そのハドソン川を描いた風景画、そしてアーヴィングが残した伝説や民話によって、この地域と分かれがたく結びついている。



Downing Park, designed by Frederick Law Olmsted, and Calvert Vaux to commemorate Andrew Jackson Downing  
Newburgh, NY

けれども、ダウニングの風景式庭園は自然の風景そのものを写しとったものではない。『風景式庭園の理論と実践に関する論文 (*A Treatise on the Theory and Practice of Landscape Gardening*)』(1841年、以下 *Treatise*)<sup>1</sup> によれば、風景式庭園の特徴は「芸術家の手によって自然と人工<sup>アート</sup>の美を融合させること、自然の表現とそれに見合った耕作<sup>カルティヴェーション</sup>／洗練とを結びつけること」(10)である。というのも、自然はいかに美しくあろうと必ずどこかに足りないものや過剰なものがあるからで、その欠点を補うためには人の手を加えること、すなわち<sup>アート</sup>技が必要になるというのだ。ダウニングの風景式庭園は、この意味であくまで「自然風」であり、決して自然そのもの／そのままではない。

したがって、その庭園の特徴は、意図的に作った不整形となる。道や川は直線ではなく蛇行している。木は左右非対称で、並木も規則正しく並んでいない。あくまで自然界にあるがままであるような形状になっているが、その実、自然のように見えるように計算しつくされた設計がなされているし、またそれを維持するように管理もされている。

ダウニングの自然風は、フランス庭園と比べてみれば、より明瞭になるだろう。ダウニングは、この二つを比較して、ヴェルサイユ庭園を「昔風」で「形式あるいは幾

何学」派と呼び、風景式庭園を「今風」で「自然あるいは不整形」派と呼んでいる。彼の庭園は、人工人造を前面の押し出すことなく、自然をより自然らしく見せるために人の手が入ったものとなっている(13-46)。

しかも、その風景式庭園は、同じように庭園形式を主張した英国のランスロット・〈ケイパブル〉・ブラウン(Lancelot “Capable” Brown)やジョン・クローディアス・ラウドン(John Claudius Loudon)のそれとも異なる。というのも、このふたりが王侯貴族の大庭園に代わるブルジョア層の庭園や公共空間の庭園設計を想定していたのに対して、ダウニングは一般市民の住宅を念頭に置いた造園となっているからだ(もちろん、一般市民とはいえ、成功して金銭的余裕がある白人男性に限られるのだが)。ダウニングの庭園は、英国風景式庭園の模倣ではなく、あくまで民主主義のアメリカにふさわしい規模で、アメリカの風景ことにハドソン河畔に溶け込むような地域限定のものとなっている。



Springside, ornamental farm and summer estate of Matthew Vassar, the founder of Vassar College  
Poughkeepsie, NY

### 3. 「自然風」重視の要因

では、なぜ「自然風」がこれほど重要視される必要があるのだろうか。これには二つの要因が考えられるだろう。ひとつは時代(共時)、いまひとつは歴史(通時)である。

ダウニングの *Treatise* が出版されたころ、アメリカ東部は大きな変化を経験していた。それは英国に半世紀遅

れて到来した産業革命で、その特徴は交換可能な部品による大量生産と宣伝による消費者の開拓だった。この結果、商品管理や広告のための事務職が発生し、事務所が集中した都市が、まずは港湾ついで鉄道を中心にして、発展した。自宅から事務所への通勤が始まると公／私の区別が生まれ、仕事と余暇のけじめが求められるようになった。ことに、賃金が出来高ではなく時間給で支払われるようになると、労働倫理の規範が強化されることにもなった(禁酒運動もこれと無関係ではない)。他方、余暇のための娯楽は多様化するとともに、誰でもが楽しめる手軽なものとなった。たとえば、劇場や酒場、あるいは製紙・印刷産業の発展とともに発行が可能になった書籍・雑誌・新聞の購読である。そして、郊外の散歩道もまた、余暇の健康的な過ごし方として歓迎されるようになった。これが具現化したものが、たとえばマウント・オーバンのような公園墓地で、死者が眠る場所であるとともに、都市の労働者たちが運動と気分転換のためにそぞろ歩く場所ともなっている。この郊外にある人工の自然環境から着想を得て、けれどももっと手近な場所にある「自然風」として提唱されるのが大きな公共の庭園＝公園であり、ここに公園運動(Public Park Movement)が始まる。

ダウニングの風景式庭園はまた、当時の家庭観を反映したものともなっている。工場や事務所への通勤があたりまえになると、「公」と「私」の区別がなされるようになり、前者が男性の、後者が女性の領域と規定されるようになる。こうして、「私」生活は外界の害悪から隔離された安全な場所であると同時に、外部からは窺い知れない非公開の場所ともなった。もちろん、この場所を司るのは女性であり、女性は道徳性と従順性を持ちあわせた「家庭の天使」になることを求められていた。<sup>2</sup> ダウニングの造園には、この公／私の区別が色濃く表れている。たとえば、家屋で言えばパントリーやリネン室は「私」のものとして目に触れない位置に移され、庭でも野菜などの実用的なものは裏庭に、美しい花や姿の

良い樹々は脇庭に植えるように、そして前庭は家屋の美観をそこなわないように大きなものは何も植えないように指示されている。この意味で、ダウニングは極めて同時代的であるといえよう。

ところで、「自然風」が重要視されたもう一つの要因は、それがアメリカの建国神話に関わるものだったからである。R・W・B・ルイス(R. W. B. Lewis)が『アメリカのアダム(American Adam)』(1959年)で論じているように、ヨーロッパからの移民は大西洋を渡ることにより旧世界の汚れを浄化し、墮落前のアダムのように広大な処女地にひとり屹立する。あるいはレオ・マークス(Leo Marx)が『庭園のなかの機械(The Machine in the Garden)』(1964年)で論じているように、「アメリカの庭園」が意味するものは、旧世界の爛熟した文明と新世界の荒野の中間地帯であり、「アメリカ人」はこの庭園を自らの手で耕し切り拓いていく。もちろん、アメリカ建国神話じたいも、ルイスやマークスも今や批判の対象となっているのだが、少なくとも本稿でとりあげているダウニングには、このような庭園観が色濃く表れている。彼が風景式庭園に求めたものは、アダム墮落以前のエデンの再現であり、その新エデンを訪れることにより都市生活者が日常の疲れを癒し、魂を浄化させることができると考えたのである。

このことは、*Treatise*の序文でも「神が最初に庭園を造り、それは人間の歓びの源泉になっている」というフランシス・ベーコンの言葉のあとで、次のように表現されている。「最初人間がその庭園から追放されたのだから、[中略]そこに戻ろうとする願望は、多かれ少なかれすべての人の心の中に自然に植え付けられている」(ix)。そして、この願望を実現するために、ダウニングが提案したのが、少なくとも建前上はすべての人たちのための「エデンの園」再建であり、それを具現化した公園であった。ここでのダウニングの庭園／公園観もまた、19世紀中葉のアメリカという時代・地域コンテキストに枠づけられている。

### 3. ポウの風景式庭園

先行研究によれば、ポウの庭園をめぐる作品には、ダウニングの影響が認められる。<sup>3</sup> たとえば、「庭園(“The Landscape Garden”)(1842年)には*Treatise* を書評した*Arcturus*の記事からの文字通りの「引用」があるし、その「庭園」の改訂版にあたる「アルンハイムの地所(“The Domain of Arnheim”)(1847年)、またその続編の「ランダーの別荘(“Landor’s Cottage”)(1848-49年)にも、ダウニングを彷彿とさせる仕掛けがなされている。

だが、上記3作品を詳細に検討すれば、ポウも登場人物エリソンも、ダウニングに賛成しているとは限らないことがわかるだろう。また、「庭園」と「アルンハイムの地所」の間に発表された「ウィサヒコンの朝(“Morning on the Wissahicon”)(1844年)では、ダウニング風の自然風景が描かれているが、大鹿さえも飼われていたことがわかるというどんでん返しがしくまれている。また、「妖精の島」(1841年)もダウニングのパロディと考えられる。

次号では、この項の続きとして、ポウの風景式庭園を分析する予定である。

---

*American Quarterly* 22.2 (1970): 177-189; Joel R. Kehler, “New Light on the Genesis and Progress of Poe’s Landscape Fiction,” *American Literature* 47.2 (1975): 173-83; Catherine Rainwater, “Poe’s Landscape Tales and the ‘Picturesque’ Tradition,” *Southern Literary Journal* 16.2 (1984): 30-43.

---

<sup>1</sup> Andrew Jackson Downing, *A Treatise on the Theory and Practice of Landscape Gardening* (New York & London: Wiley and Putnam, 1844; rpt. Ulan, 2012). 引用はすべてこの版により、ページ数は本文中に括弧に入れて示す。

<sup>2</sup> いわゆる“Cult of Domesticity”あるいは“Cult of True Womanhood”と呼ばれているものについては、すでに多くの研究文献が出ている。本稿では、おもに次のものを参照した。Barbara Welter, “The Cult of True Womanhood: 1820–1860,” *American Quarterly* 18.2 (1966): 151–174; Nancy F. Cott, *Bonds of Womanhood: “Woman’s Sphere” in New England, 1780–1835* (New Haven: Yale UP, 1977).

<sup>3</sup> Robert D. Jacobs, “Poe’s Early Paradise,” *American Quarterly* 12.3. (1960): 404-13; Jeffrey A. Hess, “Sources and Aesthetics of Poe’s Landscape Fiction,”

<参考文献>

- Baym, Nina. "The Function of Poe's Pictorialism." *South Atlantic Quarterly* 55 (1966): 46-54.
- Benham, Kevin and Donald Kunze. "Edgar Allan Poe's Landscape at Arnheim as a Model for the Surrealist Garden." [Art3idea.psu.edu/locus/POE.pdf](http://Art3idea.psu.edu/locus/POE.pdf)
- Conron, John. "The American Dream House of Andrew Jackson Downing." *American Review of Canadian Studies* 18 (1987): 9-40.
- Downing, Andrew Jackson. *A Treatise on the Theory and Practice of Landscape Gardening*. New York and London: Wiley and Putnam, 1844. Rpt. Ulan, 2012.
- Furrow, Sharon. "Psyche and Setting: Poe's Picturesque Landscapes." *Criticism: A Quarterly for Literature and the Arts* 15 (1973): 16-27.
- Hess, Jeffrey A. "Sources and Aesthetics of Poe's Landscape Fiction." *American Quarterly* 22.2 (1970): 177-89.
- Jacobs, Robert D. "Poe's Earthly Paradise." *American Quarterly* 12.3 (1960): 404-13.
- Jones, Karen R and John Wills. *The Invention of the Park: From the Garden of Eden to Disney's Magic Kingdom*. Cambridge and Malden: polity, 2005.
- Kane, Margaret. "Edgar Allan Poe and Architecture." *Sewanee Review* 40.2 (1932): 149-60.
- Kehler, Joel R. "New Light on the Genesis and Progress of Poe's Landscape Fiction." *American Literature* 47.2 (1975): 173-83.
- Leighton, Ann. *American Gardens of the Nineteenth Century: "For Comfort and Affluence."* Amherst: U of Massachusetts P., 1987.
- Ostrom, John. "Second Supplement to the Letters of Poe." *American Literature* 29.1 (1957): 79-86.
- Pauly, Philip J. *Fruits and Plains: The Horticultural Transformation of America*. Cambridge and London: Harvard UP, 2007.
- Rainwater, Catherine. "Poe's Landscape Tales and the 'Picturesque' Tradition." *Southern Literary Journal* 16.2 (1984): 3-43.
- Sanford, Charles L. "Edgar Allan Poe: A Blight Upon the Landscape." *American Quarterly* 20.1. (1968): 54-66.
- Schuyler, David. *Apostle of Taste: Andrew Jackson Downing, 1815-1852*. Amherst: Library of American Landscape History, 2015.
- Sweeting, Adam. *Reading Houses and Building Books: Andrew Jackson Downing and the Architecture of Popular Antebellum Literature, 1835-1855*. Hanover and London: UP of New England, 1996.
- Tatum, George B. "The Beautiful and the Picturesque." *American Quarterly* 1.1 (1951): 36-51.
- 画像のURL:  
Andrew Jackson Downing  
[https://en.wikipedia.org/wiki/Andrew\\_Jackson\\_Downing#/media/File:Andrew\\_Jackson\\_Downing02.jpg](https://en.wikipedia.org/wiki/Andrew_Jackson_Downing#/media/File:Andrew_Jackson_Downing02.jpg)  
Public Domain
- The Cultural Landscape Foundation  
<http://tclf.org/pioneer/andrew-jackson-downing?destination=search-results>

